

獺 不次男（ばく・ふじお）

1、プロフィール

弘前ペンクラブ会長として、県の文化事業に広く貢献。また、歴史作家として、全国的に広く認められ、大手出版社より単行本を数多く出版した。

<生没>

1934(昭和9)年4月14日～2011(平成13)年12月19日

<代表作>

『津軽隠密帖』(平成17年8月河出書房新社)、『津軽太平記』(平成17年12月同上)、『元禄妖犬伝』(平成18年8月同上)

<青森との関わり>

弘前市生まれ。弘前大学卒、弘前高校校長を務める。同人誌「むうぞく」代表。弘前ペンクラブ会長(二代目)。

2、作家解説

獺 不次男(小説家)。本名、阿部次男。昭和9年4月14日、弘前市百石町9番地に、阿部幸一・阿部いわの長男として生まれる。父親は、百石町の「文化堂阿部煎餅店」を経営。5歳のとき、肺炎発病後膿胸で臨死体験をする。母親の必死の看病でやがて快復するも、幼年期は病弱であった。8歳のとき、母が結核で逝去。母は自分の身代わりに死んだという思いがあり、母なるものへの思慕は、その後の作品の中に度々現れる。養生幼稚園、市立時敏国民学校(5年生のとき終戦)、市立第一中学校、県立弘前高校、弘前大学文理学部文学科卒。中学のとき、国鉄・NHK・「東奥日報」共催の作文コンクールがあり、当時市立第三中学校にいた長部日出雄と共に入賞、NHKラジオで朗読放送。長部とは、弘前高校で一緒となり、以後、親交が続く。大学卒業後、中学校教師となり、昭和33年、佐々木ノブと結婚、その後、高校教師に。平成7年、弘前高校校長として定年を迎える。

学生時代より、さかんに創作活動を行う。「弘大文芸」に小説「猿」を発表したのをきっかけに、以後ペンネームを猿不次男とする。大学での専攻は英文学、卒論はイギリスの風刺作家スイフト。創作の幅は広く、小説以外にも自由律俳誌「鷹」「層雲」同人となり、池原魚眠洞の一行詩誌「視界」の創刊に参加。詩人としても「弘前詩人」等に作品を発表。また、作曲家川村昇一郎のために多くの作詞をしている。昭和 56 年、小説「長安の夢」が新人物往来社主宰・歴史文学賞の最終候補作品となる。昭和 60 年には同人誌「むうぞく」を創刊主宰。同人は、風音皜（川村昇一郎）、英ひらら（笹森建英）、斉藤せつ子、泉嶺、山川遊而（学而）、川村慶子、櫻井麻古人など。平成 13 年、「東奥日報」に小説「津軽太平記」を一年間連載したのが大きな転機となり、歴史小説家として全国に認められる。河出書房新社より『津軽隠密秘帖』（平 17）、『津軽太平記』（平 17、「東奥日報」刊（平 14）の改訂）、『元禄妖犬伝』（平 18）と立て続けに出版。平成 23 年 12 月 19 日、77 歳で逝去。

3、資料紹介

○『津軽太平記』

図書

2009（平成 17）年 12 月 30 日

195mm × 140mm

平成 13 年、「東奥日報」に一年間連載された。津軽為信が軍師・面松斎と共に津軽を統一し、弘前に城を築くまでの物語。これにより、猿不次男は歴史小説家として全国に認められる。東奥日報社（平 14）、河出書房新社（平 17）。